

Ⅲ 学校評価に関するQ & A



Q 1 なぜ学校評価を行うのでしょうか？

平成 19 年度学校評価報告書 p. 4 参照

学校評価を通して、学校運営の発展と改善が行われ、児童生徒がよりよい教育活動等が受けられるからです。そして、学校設置者である教育委員会は、学校評価報告から、学校支援にあたることのできるからです。

POINT① 学校評価には、3つの目的があります。

目標設定したものが「できた」「できない」だけでなく、教育活動の取組についても評価しましょう。

<目的1>

学校や教育全体の組織をどのようにするか考えていきましょう。学校として組織的・継続的に改善を図ります。

学校評価ガイドライン〔改訂〕 p. 1 参照

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

<目的3>

設置者は、支援や条件整備等の改善措置を講じ、教育の質を保証し、向上を図るよう努めます。

<目的2>

評価活動をしたので、家庭や地域に評価の公表・説明をするとともに、みんなで一緒に学校づくりを進めます。

各学校は、今までの教育活動を見直して、成果や課題を明らかにすることが大切ですね。学校の運営改善を図り、学校評価の結果を公表して、家庭や地域の信頼に添えていきましょう。



POINT② 学校評価には3つの実施手法があります。

学校評価ガイドライン〔改訂〕 p. 2 参照

- ① 各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- ② 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- ③ 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価【第三者評価】

※川崎市では、具体的に①と②を連携した学校評価に取り組んでいます。

Q2 自己評価とは、どのようなものなのでしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕p.2 p.8 参照

学校評価のもっとも基本となるものであり、校長のリーダーシップの下で、学校評価委員会等を設置し、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものです。

POINT① 年度はじめに、重点化された具体的な目標の設定をします。

平成19年度学校評価報告書 pp.19-22 参照

学校評価ガイドライン〔改訂〕【参考2】pp.34-39 参照



各学校は、重点的に取り組むことが必要な単年度の目標を具体的・明確に定めます。その目標の達成に向けた評価項目・指標を精選して設定します。評価項目・指標については、次のように検討の際の「視点の例」があります。

- 教育課程・学習資料 ■生徒指導 ■進路指導 ■保健管理
- 安全管理 ■特別支援教育 ■組織運営 ■研修
- 教育目標・学校評価 ■情報提供 ■保護者、地域住民等との連携
- 環境整備など

今年度、子どもたちにどのような力をつけたいのか、学校としてどのように改善するのか具体的な指標を全職員で考えることが重要です。

年度はじめの目標設定なども、中間評価などを実施することにより、適宜見直しを行うことも可能です。

POINT② PDCAサイクルに基づいて行います。

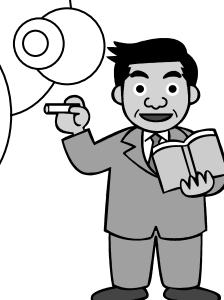
学校評価ガイドライン〔改訂〕p.8 参照

[Plan (目標設定) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善)]

重点目標に基づく評価（評価項目の設定）、評価結果に基づく改善方策の立案が重要です。教育活動や学校運営について継続的・発展的な改善を図ります。

学校運営の改善を図るためには、全教職員の共通理解や協力が大切です。全教職員の参加のもとに評価活動を進めます。担当を決めて、その人に任せておけばよいということではありません。

各学校は評価項目・指標に基づき、目標の達成状況や取組状況を評価するとともに、その改善方策も検討します。



Q3 学校関係者評価とはどのような評価でしょうか？

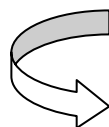
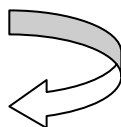
学校評価ガイドライン〔改訂〕 p. 3 p. 16 参照

保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者、接続する学校（小学校に接続する中学校など）の教職員その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うものです。

POINT① 自己評価を踏まえた学校関係者評価です。

学校関係者評価委員が、自己評価の結果を評価することを通じて…

自己評価の客観性・透明性を高めます。



学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め、その連携協力による学校運営の改善を促進します。

これからも更に、協力していくといいですね。



生徒の様子や先生方の指導の様子などをぜひ見に来てください。

※ 学校教育推進会議等を生かして学校評価委員会を設置することが効果的です。

保護者アンケート等の実施で学校関係者評価に代えることは適当ではありません。

POINT② 主体的・能動的に評価をします。

平成 19 年度学校評価報告書 p. 4 参照

学校関係者評価の進め方

- ① 学校は学校関係者評価委員会を設置します。
- ② 必要に応じて授業や学校行事の参観、教職員・児童生徒との対話、校外活動の参観を適宜行い、学校への理解を深めるようにします。
- ③ 学校評価委員会は各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を通じて学校の自己評価が適切かどうか、また、その結果を踏まえた改善方策が適切かどうかを評価します。
- ④ 学校関係者評価委員会は評価結果を報告書（設置者への提出）に反映させます。自己評価に関する意見や、教育活動その他の学校運営に関する意見などについて、簡潔かつ明瞭に記述します。

学校関係者と教職員が話し合うことが大切です。



Q 4 第三者評価とはどのような評価でしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕 p. 3 参照

第三者評価は、学校と直接関わりをもたない専門家等による学校評価です。
一般的には客観的な評価ができると言われています。

POINT① 専門的・客観的にみることができます。

第三者評価はその学校と直接関わりをもたない専門家等が、自己評価及び学校関係者評価の結果等も資料として活用しつつ、教育活動その他の学校運営全般について、専門的・客観的（第三者的）立場から評価を行うものです。

例えば、大学教員等の有識者を加えて専門的な視点を加えた評価を実施することなども考えられます。客観的に評価が行えると言われています。

独立した第三者評価が難しくても、学校関係者評価委員の中に、これらの専門家を加えることにより、第三者評価的な評価を期待することもできます。

専門的な視点からの評価を踏まえた学校運営の改善を行うことができるのですね。

しかし、専門的・客観的（第三者的）立場から評価を行うものなので、人選や編成等が難しいことが課題と言えます。

保護者や地域の方が行う評価は、第三者評価とは言いません。

第三者評価を活用した評価の在り方については、今後さらに文部科学省において検討を深めることとしています。



Q5 外部アンケート等とはどのようなアンケートなのでしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕p.3 参照

学校が児童生徒や保護者・地域住民に対して行うアンケートで、学校評価の特に教職員の自己評価資料として活用するものです。

POINT アンケートのとらえかたを明確にしましょう



自己評価を行う上で、児童生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、授業の理解度や保護者・児童生徒がどのような要望をもっているか把握することが重要です。

学校関係者評価と外部アンケートは違うんですね。



用語を整理してみましょう

今まで、アンケートや懇談会の実施を「外部評価」としてとらえてきた例も見られましたが、現在はそれに留まらず、「学校関係者評価」として保護者等による評価の実施に努めることが法令上求められています。外部評価は二つに概念上分けて整理しています。

外部評価

学校関係者評価

第三者評価

アンケートの役割

アンケート等については、学校の自己評価を行う上で、目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するための重要な資料ととらえることが適当であり、学校関係者評価とは異なることに留意します。

保護者や児童生徒にアンケートをとり、それだけでよいということではないんですね。



Q6 自己評価をどう進めればよいのでしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕pp. 8-9 参照

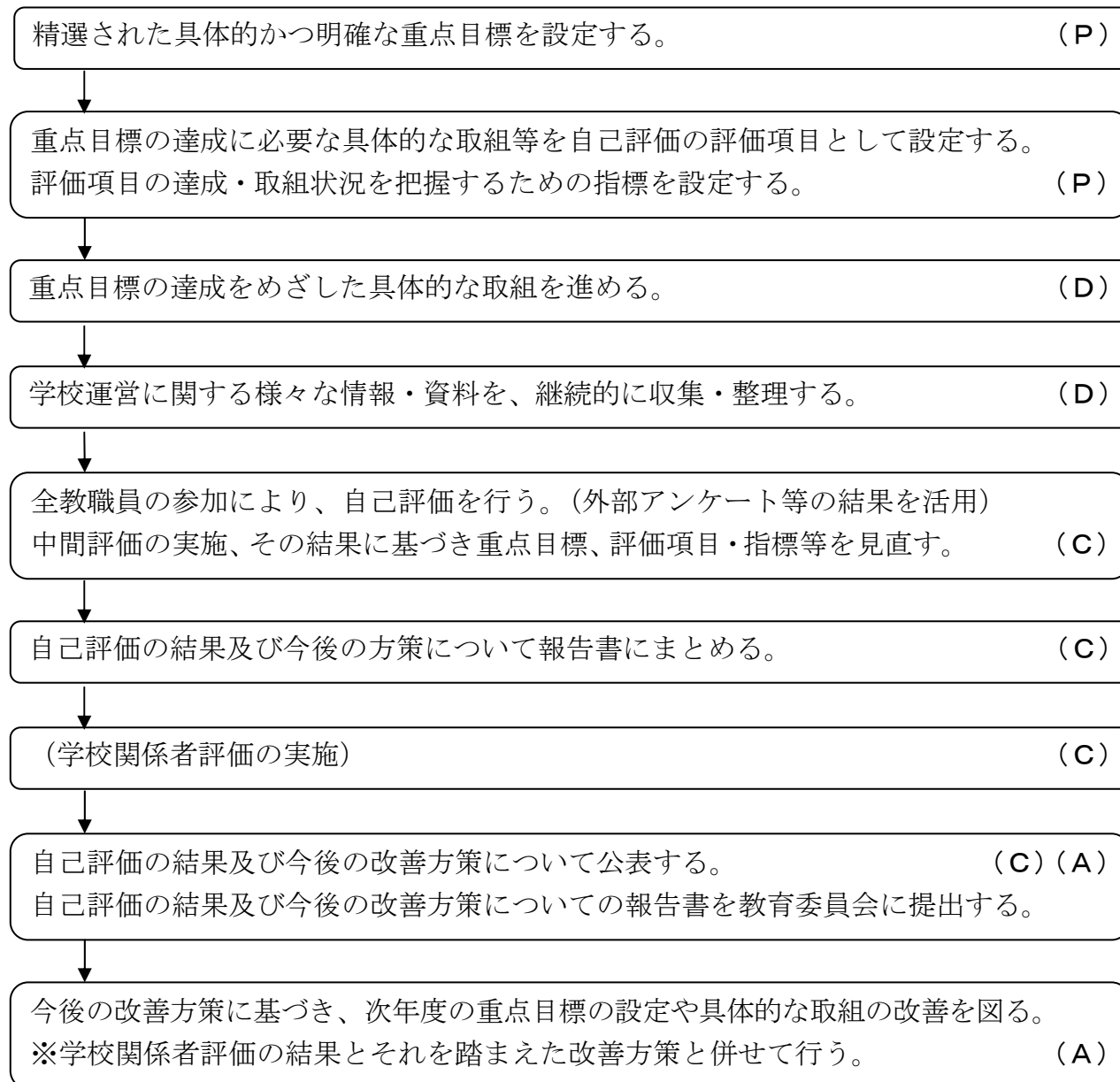
自己評価は、教職員による評価で、具体的かつ明確な目標を設定し、実行し、自ら評価するものです。具体的には次のような流れで行うことができます。

POINT① 重点化された具体的な目標を設定しましょう。

重点化された目標設定が自己評価の始まりです。重点目標は、学校の課題に即した具体的で明確なものにしましょう。

POINT② PDCAサイクルによる自己評価にしましょう。

重点目標に基づく評価項目を設定し、その項目についての現状把握と具体的取組を設定します。そして、評価、改善方策を立案し改善に向けて取り組みます。そのサイクルを大事にしましょう。評価結果に基づく改善方策の立案が重要です。



たとえば研究実践校では

例1 教職員の自己評価はアンケートではなく、職員会議における討議で行います。

教職員の自己評価は、年3回職員会議における討議で行います。評価期間の短い項目については年度末を待たずにできるので、実践しながら速やかに改善策を考えることができます。保護者や生徒のアンケートは、年1回（11月初旬）に実施し、その結果を踏まえた自己評価を12月下旬までに行います。次年度に向けた改善策は1月から2月にかけて検討します。

例2 個人評価の後、グループで話し合い、全体会でまとめます。

- ① 一人一人が自己評価シートに記入します。
- ② 5～6人のグループで各自の評価結果について話し合います。その結果をグループ用自己評価シートにまとめ、全員に配付します。
- ③ グループ用自己評価シートをもとにして、全体会で話し合いを行います。
- ④ 全体会での話し合いをまとめて学校全体としての自己評価シートを完成し、学校関係者評価委員会用の資料とします。

1枚の自己評価シートを連続して活用して行うことができます。また、全教職員が参加して行うので、学校の様子・児童の姿を多方面から見ることができます。例えば、教員の「児童のあいさつがまだ定着できていないのではないか。」という評価に対して、給食調理員さんが、「給食室前で、とてもよくあいさつができます。」という意見を出すなどの話し合いができます。その結果、全教職員の意見が反映された自己評価シートが完成します。

例3 学校行事や授業参観により、継続的に評価を行っています。

随時、保護者や地域の方から評価を受け、その結果を分析し、全教職員で共有化します。保護者アンケートの自由記述欄の記述にも着目し、学校評価委員会で検討します。また、授業参観時は保護者だけでなく、教員もより専門的な授業観察に取り組み、その記録を授業者に渡し、授業改善に結びつけます。授業改善を自己評価の視点としています。

例4 授業改善を柱に学校評価を考えています。

学校評価は、学校改善のためのものです。そこで、「授業が変われば学校は変わる。」という考えをもとに、学校改善に取り組んでいます。校内授業研究会の研究討議においては、みんなが積極的に意見を出し、議論し合います。「学校評価」→「校内授業研究会の充実」→「授業改善を視点とした話し合い」を意識して取り組みます。毎回同じ講師の先生に来ていただき、継続的にご指導をいただいています。授業改善を学校経営の柱として自己評価を行っています。



アンケートばかりでなく、話し合いや保護者の声からも自己評価ができるのですね。

Q7 自己評価シートを作成する際のポイントは何でしょうか？

平成19年度学校評価報告書 pp.12-15、pp.19-22 参照

自己評価シートを作成及び活用するためのポイントには、次の4点が考えられます。

- ① 学校教育目標から学校経営目標→重点目標→具体的取組→評価項目→評価の指標を設定して作成します。
- ② 自己評価シートをもとに、教職員・保護者・児童生徒向けアンケートを作成するようにします。
- ③ 学校関係者評価委員会における資料となることを念頭におきます。
- ④ 教育委員会に提出する報告書に活用できる形式にするとよいでしょう。

評価の指標は、学校がめざす子どもの姿が具体的に示されていることが重要です。

評価指標の例

<具体的な指標例>

「子どもたちが、互いに尊重し合っていることが伝わるような言葉遣いや行動をしている。」

<抽象的な指標例>

「子どもたちが、人権を尊重し合っている。」



全教職員が同じ指標に向かって学校運営に取り組むことが必要です。そのためには、各分掌、学年、教科等で達成のための具体的手立ても考えることが必要です。

自己評価シートの評価項目を作成するための資料には、「かわさき教育プラン」、「かわさき夢教育200X」「ガイドライン [改訂]」（文部科学省 20年1月）p.11、平成19年度学校評価報告書 pp.12-15、学校教育目標及び前年度までの中間及び年度末反省会議資料、学校教育推進会議委員等から寄せられた意見や要望に関する資料等があります。



Q 8 全教職員で学校評価に取り組むためには、どうすればよいでしょうか？

平成 19 年度学校評価報告書 p. 9-10 参照

全教職員で学校評価に取り組むためのポイントは、次の 3 点があります。

- ① 全教職員が学校評価の目的を理解します。
- ② 学校評価を円滑に進めるために、校内組織を作ります。
- ③ 継続できる体制を確立します。

POINT① 全職員が学校評価の目的を理解します。

学校評価は、児童生徒がより良い教育活動等が受けられるよう学校運営の改善と発展をめざすための取組です。全教職員が学校評価の目的を理解するためには、校内研修が有効です。Q 9 を参考にして、校内研修を進めましょう。その際、総合教育センター指導主事が講師となることも可能です。

POINT② 校内組織作りには、2つの方法があります。**① 既存の組織を活用する方法**

たとえば、教務部に学校評価を推進していく機能をもたせ、教育計画の一環として、全ての教職員で学校評価に向けた取組を行っていくことが考えられます。

教務部では、学校評価についての基本的な考え方やねらいを明確にして、他の校務分掌との連絡調整を図りながら、全教職員の共通理解のもとに学校評価を進めていきます。

**② 新たな組織を活用する方法**

「校内学校評価委員会」などの新しい組織を編成して学校評価を効率的に進めていくこと等が考えられます。



「校内学校評価委員会」は、校長、教頭と各校務分掌の代表等で組織し、学校評価の推進について検討・協議するとともに、全体計画や年間評価計画等の原案を提示しながら、全教職員の共通理解のもとに学校評価を進めていきます。

POINT③ 継続的に取り組む体制を確立しましょう。

学校の実態に応じて協働体制を確立するという視点を重視し、時間を確保する、研修の機会を設ける等、負担にならないよう継続できる体制を確立することが大切です。

Q9 学校評価（自己評価）の校内研修は、どのように進めればよいでしょうか？

校内研修で押さえてたい視点には、次の4点が考えられます。

- ① 今までの自校の学校評価の取組の課題を把握しましょう。
- ② 「学校評価」に係る用語の整理をしましょう。
- ③ 学校評価に関する法令上の規定等について理解しましょう。
- ④ PDCAサイクルに基づいた学校評価の進め方を理解しましょう。



学校評価が学校改善につながっているか話し合いましたよ！

POINT① 今までの学校評価の取組の課題を把握しましょう。

- ・ 今まで行われていた自校の学校評価の取り組みを振り返り、課題を洗い出します。

POINT② 「学校評価」に係る言葉の整理をしましょう。

- ・ 学校評価の目的は
- ・ 自己評価とは
- ・ 学校関係者評価とは
- ・ 第三者評価とは
- ・ 外部アンケート等とは

学校関係者評価は、自己評価の結果を評価するのですね。

保護者のアンケートを学校評価としていなかったかな？



POINT③ 学校評価に関する法令上の規定等について理解しましょう。

- ・ 教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携教育）
- ・ 学校教育法第42条、第43条（学校運営の改善、情報の提供）
- ・ 学校教育法施行規則第66条、第67条、第68条（自己評価、学校関係者評価、評価結果の設置者への報告）
- ・ 学校評価ガイドライン〔改訂〕文部科学省
- ・ 平成19年度報告書「学校評価」川崎市総合教育センター

「自己評価の実施」「自己評価結果の公表」「設置者への報告」が義務化されたのか！

POINT④ PDCAサイクルに基づいた学校評価の進め方を理解しましょう。

- ・ 学校教育目標から今年度の重点課題を設定します。＜4月＞（P）
- ・ 目標設定と解決のための手段を検討します。＜4月＞（P）
- ・ 計画に基づき、指標をめざし、学校運営を実践します。（D）
- ・ 外部アンケート等を参考にして、自己評価をします。＜1月＞（C）
- ・ 自己評価の結果を公表します。＜1月＞（C）
- ・ 改善への取組について検討します。＜2・3月＞（A）
- ・ 教育委員会へ学校評価報告書を提出します。＜3月＞（A）

（※自己評価を年1回行う場合の例）

P（目標設定）
D（実行）C（評価）A（改善）
サイクルが大切なのですね。



Q10 学校の現状を把握するために、どんな方法が考えられますか？

全教職員の思いや考えを付箋に記入して話し合い、学校の現状を把握する方法があります。



一人一人が付箋に記入します。

Step1

5～6人のグループに分かれて「生徒について」「学校の運営体制について」「授業について」という3つの視点で、一人一人が付箋に記入します。

プラス面「本校の強み」は青の付箋に、マイナス面「本校の弱み」は黄色の付箋に書き出します。



付箋を出し合い、意見交換します。

Step2

それぞれの付箋を項目ごとにまとめながら、模造紙にはります。考え方、感じ方が違った点等について、意見交換をします。



まとめて表題をつけます。

Step3

似ている意見は、まとめてくり、表題をつけます。



「本校の強み」と「弱み」

Step4

全体会で、グループごとに模造紙にまとめた考えを発表し、意見交換を行い、学校の現状について理解し共有化を図ります。



グループの代表が発表します。

この方法は、学校関係者評価委員や保護者の意見を集約する方法としても有効です。



Q11 自己評価をする際の留意点は何でしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕 p.13 参照

学校評価の基本は自己評価です。自己評価の取組では、学校の実情に応じ、学校の長所と課題を踏まえた学校改善を図っていくことが大切になってきます。自己評価の取組の中で、次に示す5つのポイントが主な留意点になります。

POINT① すみやかに改善

日常の教育活動の中で課題が見つかった場合、評価の実施時期にとらわれず、すみやかに改善に取り組むようにします。そのためにも学校評価の体制づくりが重要となります。

POINT② 分析は多角的に

学校の教育活動の成果は、学校の取組だけでなく、児童生徒や家庭、地域の状況にも影響されるものです。目標の達成という評価のみをもって、学校の取組が不十分であると判断できるわけではないことに留意してください。分析は多角的に行っていきましょう。

POINT③ 数値での評価の留意点

客観的に状況を把握する上で数値で評価を行うことは有効と考えられますが、同時に数値によって定量的に示すことのできないものにも焦点を当てていきましょう。また、特定の評価項目・指標等だけに着目したり、数値の向上を目指したりすることに重点を置くことは避けたいものです。目標から外れた学校運営や改善方策の立案が行われたり、単に数値を上げることのみが目標となって本来あるべき姿が見失われることのないように留意してください。

POINT④ 結果よい方法

取組の適切さ等の評価においては、目標の達成状況と、目標達成に向けた取組との間の因果関係の把握に努めてください。全教職員が目標達成に向かうことが大切なのです。

POINT⑤ 目標等の設定そのものも評価対象

目標や具体的計画、評価項目・指標等の設定そのものが適切であったかどうかについても、常に吟味することが必要です。これも評価の対象に含まれます。



自己評価の留意点を確認し、自己評価の意義・効果を高めていきましょう。



Q12 保護者・児童生徒・教職員のアンケート作成のポイントは何ですか？

平成19年度学校評価報告書 p.27 参照

アンケートの作成のポイントは次に示す5つが考えられます。

- ①自己評価シートの学校教育目標や学校経営の重点目標等との関連を図りつつ、適切に項目を設定されていること。
- ②設問の内容が明確で、評価しやすい内容になっていること。
- ③複数の回答を含む設問の設定を避けること。
- ④設問数をあまり多く設定しないこと。
- ⑤アンケートの内容を、学校関係者評価委員の方々と共に考えていくと、保護者・地域住民にとって分かりやすいアンケートになること。

自己評価シートの重点目標からアンケート項目を設定する。(例)

自己評価シート	学校経営の重点目標	今年度の重点	評価の観点
思いやりの心・たくましい心・感動する実践力の育成	①人権尊重教育・道徳教育の充実	子どもたちの人間関係や言動を把握し、規範意識や自尊感情の高揚、他者を思いやることの大切さを学ばせる。	子どもたちが尊重し合っ とが伝わるよ 遣いや行動 る。
	②児童の発想・発信を大切に児童活動の充実	子どもたちの自分たちの学校を自分たちで創っていくとする「自主・自立・自治意識」を育成する。	学校行事や実 動等では、子 すすんでアイ て実行に移し
	③児童理解・児童指導の充実	子ども一人一人の心情や言動を共感的に理解し、個に応じた指導・支援を行う。	子どもの心情 その背景に 分に理解し
	④縦割り活動の充実	子どもたちに縦割り活動の良さ に気づかせ、計画の段階から主体的に進められるようにする。	子どもたちの が活動内容や 表れ、異学年 的交流が図ら
	⑤心を育てる教育環境の整備・充実	校舎内の美化に努め、季節感のある温かい雰囲気のある校環境	校舎が整理整 温か、季節感 境がつけられ

教職員アンケート	
【豊かな心とたくましい実践力の育成】	
項目	評価
1 子どもたちが自分や友だちを大切に生活を送れるように努めている。	5 4 3 2
2 子どもたちがすすんで活動したり、自分らしさを発揮したりできるように努めている。	5 4 3 2
3 子どもたちの生活の様子を視て、適切に対応している。	5 4 3 2
4 縦割り活動が充実するように工夫している。	5 4 3 2
5 校舎内の美化をすすめ、子どもたちが気持ちよく学習したり活動したりできるようにしている。	5 4 3 2
【確かな学力の育成】	
1 子どもたちの学力が向上するよう学ぶ楽しさやできる喜びを味わえるように授業を工夫している。	5 4 3 2
2 子ども一人一人の実態に応じた学習の指導・支援を行う。	5 4 3 2
3 自然や人栽培活動	

保護者・地域住民のアンケートで「F：分からない」を設けることで、学校の取り組み状況がどのくらい伝わっているかを見ることが出来ます。

4・5・6年向け子どもアンケート

項目	評価
1 わたしは友だちを大切にしている。	5 4 3 2
2 わたしは、学校やクラスがよりよくなるようにアイデアを出したり、行動したりしている。	5 4 3 2
3 先生たちは、わたしの様子をよくみてアドバイスをしてくれる。	5 4 3 2
4 わたしは、いろいろな学年の人と栽培活動をしたり、遊んだりする縦割り活動を愛している。	5 4 3 2
5 校舎内はみんなが大切にされている。	

【豊かな心とたくましい実践力の育成】	
項目	評価
1 学校は、子どもたちが自分や友だちを大切に生活を送れるように努めている。	5 4 3 2 F
2 学校は、子どもたちがすすんで活動したり、自分らしさを発揮したりできるように努めている。	5 4 3 2 F
3 学校は子どもたちの生活の様子を視て、適切に対応している。	5 4 3 2 F
4 学校は縦割り活動が充実するように努めている。	5 4 3 2 F
5 校舎内の美化をすすめ、子どもたちが気持ちよく活動したりできるように努めている。	5 4 3 2 F

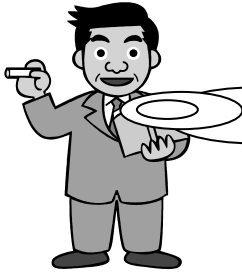
「外部アンケート等」を実施する目的は、自己評価の実施に当たり、児童生徒、保護者、地域住民の具体的な意見や要望を把握することにあります。



Q13 学校関係者評価委員会設置のポイントは何でしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕p.16 参照

学校関係者評価は、保護者や地域住民などの学校関係者等が、自己評価の結果を評価すること等を通じて自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的として行うものです。



「学校関係者」とは、保護者、学校評議委員、地域住民、地元企業関係者、青少年育成団体・警察の関係者、接続する他段階の学校の教職員、大学等の研究者の方々をいいます。これらの方々によって学校関係者評価委員会を設置していくとよいですね。また、既存の『学校教育推進会議』の組織を生かして設置していく方法もあります。

POINT① 自己評価をより正確にするために

- ・自己評価結果を学校関係者の視点から確認します。
 ⇨自己評価の客観性・透明性を高めます。
- ・評価を通じて学校の現状と課題について共通理解を深めます。
 ⇨家庭・地域との連携や学校運営の改善への協力を促進していきます。
- ・評価者には学校の取組みを十分に理解してもらうよう努めます。
 ⇨学校・家庭・地域を結ぶコミュニケーションツールとしての活用を図ることが重要です。

POINT② 学校や子どもたちの様子を理解していただくために

・評価の実施に先立ち、次のような活動を行ったうえで、学校の自己評価結果や今後の改善方策等について意見を述べることを期待されます。

- 授業参観 ● 学校行事の参観 ● 教職員との意見交換 ● 児童生徒からのヒヤリング
- 部活動や登下校等の見学 ● 施設・設備の見学

POINT③ 学校、保護者・地域の連携を深めるために

学校関係者評価を通じて
 教職員や保護者、地域住民等が学校運営について意見交換を行います。

↓

学校の現状や取組を知り課題意識を共有します。

↓

学校と家庭・地域の相互理解の深化を図ります。

外部アンケート等の実施で学校関係者評価に代えることは不適當ですよ。



Q14 学校関係者評価をどう進めればよいのでしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕 pp.17-18 参照

学校関係者評価は、教職員と学校関係者の方々との共通理解が必要です。学校関係者評価を進めていくうえで、次に示す学校関係者評価の流れを参考に実施してみてください。

学校関係者評価の流れ

学校関係者評価委員会を組織する

学校は、保護者、地域住民、青少年健全育成団体関係者など、学校と直接関係のある方を評価者とする学校関係者評価委員会を組織する。

取組状況等の説明

学校は学校関係者評価委員会に対し、重点目標や自己評価の取組状況等を説明する。



学校運営の様子を理解

学校関係者評価委員会は、授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、校長など教職員や児童生徒との対話を行う。



評価を行う

学校関係者評価委員会は、学校の自己評価の結果及び今後の改善方策、重点目標や評価項目等の在り方等について評価する。



結果の取りまとめ

学校関係者評価委員会は、その評価の結果を取りまとめる。

報告書の取りまとめ

学校は、学校関係者評価の結果を踏まえ、自己評価の結果に基づく今後の改善方策を見直し、評価の結果と今後の改善方策を併せて報告書に取りまとめる。

公表・設置者に報告

学校は、（自己評価及び）学校関係者評価の結果並びにそれらを踏まえた今後の改善方策について、広く保護者に公表する。

学校は、学校関係者評価の結果及び今後の改善方策についての報告書を設置者に提出する。これについては、自己評価の結果と併せて行うことが考えられる。

改善を図る

学校は、改善方策に基づき、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図る。

Q15 学校関係者評価委員会の効果的な運営のポイントは何でしょうか？

学校評価ガイドライン〔改訂〕pp. 19-20 参照

学校関係者評価委員の方々に内容をよく理解していただくことが大切です。次に示す4点が学校関係者評価委員会の効果的な運営のポイントになります。

POINT①円滑な実施のための資料提供と説明

各学校は、学校関係者評価実施に先立って、次の資料の提示をはじめとして、教育活動その他の学校運営の状況について学校関係者評価委員会に説明することが大切です。

- ・重点目標など具体的な目標や計画の説明。
- ・本年度の自己評価の評価項目などの取組状況の説明。
- ・前年度の自己評価・学校関係者評価の結果及びそれらを踏まえた改善状況の説明。
- ・学校関係者評価委員会から求められた資料についての積極的な提示。

POINT②主体的・能動的な評価の内容と活動

学校関係者評価においては主体的・能動的な評価活動が期待されています。

- ・評価を行うに先立ち、授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、校長など教職員や児童生徒との対話等を行う。
- ・学校の求めに応じてアンケートに回答することのみや、自己評価の結果について単に説明を受け意見聴取されるだけの受け身的な評価活動に留まることのないように留意する。

POINT③共通理解を深める

学校関係者評価委員会は、学校との間で十分な意見交換や対話を行い、学校の状況について相互の共通理解を深めることが大切です。

- ・授業や学校行事の参観。
- ・施設・設備の観察。
- ・校長など教職員や児童生徒との対話。
- ・部活や登下校の見学。

**POINT④どのようなことを評価するのか**

学校関係者評価委員会は、各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を通じて、当該年度の学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価することを基本としています。

- ・自己評価の内容が適切かどうか。
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。

などを評価していきます。



学校関係者評価委員会で話し合う内容が単なる教育論になったり、学校に対する注文の会にならないように、学校関係者評価委員の方々にも内容をよく理解していただくことが大切です。

昨年、総合教育センターで、「学校関係者評価委員研修会」が開催されました。このような研修会に参加した委員の方から学校関係者評価の内容を聞き、理解を深めるといいですね。

Q16 自己評価を学校運営にどのように生かせばよいでしょうか？

自己評価の結果を前期反省や年間反省として生かすことや、自己評価を毎月の職員会議に定期的に位置付けることができます。

なるほど！
これまでやって
いたことを生か
せばいいです
ね。



POINT① 自己評価を教職員へのアンケートだけでなく、「職員会議等における討議」を主として、年間3～4回の形成的な自己評価とすることもできます。

【自己評価を学校運営に生かすメリット】

①	評価期間の短い項目については、年度末を待たずにできることから、実践しながら速やかに改善策を考えることができます。
②	保護者アンケート・子ども向けアンケートは11月頃に実施し、職員会議討議の資料として生かしていきます。
③	12月中の学校関係者評価で評価をもらい、次年度の計画を1月以降、時間をかけて練ることができます。

POINT② 自己評価の時期・方法を考えましょう。課題に対して的確に改善策を講じるためには、自己評価の時期が大事になってきます。

自己評価の実施時期と改善策の取組(例)

	自己評価の実施時期	方法	改善策の取組
例 ①	定期的な職員会議等での自己評価 (自己評価を職員会議に位置付け)	○自己評価シートをもとにした話し合いのみの方法	◆職員会議の案件に組み入れ取り組みます。改善策に随時取り組めます。
例 ②	年1回(12月頃)の自己評価 (年間反省に位置付け)	○各自自己評価シートへ記入し、グループでまとめ、職員会議で更に総括する方法 (Q6参照)	◆今年度の結果を踏まえて、来年度に向けての改善策の検討に時間がかけられます。
例 ③	年2回(7月頃・1月頃)の自己評価 (年間反省に位置付け)	○付箋を使った方法 (Q10参照)	◆年度内の比較検討ができるとともに、成果と課題を短期間でつかむことができます。すぐに取り組む改善策と長期的に考え取り組む改善策の両方に対応できます。

付箋の方法では、一人一人が対話しながら課題をグループ分けするので、課題や成果を共通理解できるとともに、客観的に多角的にそれらを分析することができます。
(Q10参照)



～付箋による学校の良い点・
問題点の洗い出しの様子～



Q17 自己評価を学校改善に生かすポイントは何でしょうか？

時間軸の中で考えてみましょう。
改善策を短期・中期・長期で整理することが大切です。
PDCAサイクルのAction（改善）が大切です。

改善策を立ててこそが、学校評価ですね。



POINT① 自己評価結果を結果に終わらせず、改善策を必ず立てましょう。

少人数のグループで考えられる改善策を出します。

すぐに取り組めるもの、今年度中に取り組めるもの、来年度から取り組めるもの等のグループ分けをします。（付箋を使って模造紙にまとめます）



～ 課題を時系列に並べている様子～

2 すぐに取り組めるものからのスタートです。

取り組むべき方向性が決まったら、積極的に広報しましょう。有言実行です。学校便り・学年便り等で学校の考えや取組を、保護者や地域の方に発信していきましょう。

力強い応援を得られるはずですが、また、具体的に目に見える形で取り組むためにも、情報発信はとても大切です。

POINT② 自己評価結果を常に振り返り、今の状態がどの方向に向かっているのかを客観的に見て考える時間をスモールステップでとりましょう。

自己評価は評価して終わりではなく、そこから見えてきた課題を、どう具体化して改善していくかが、大事ですね。

例えば、毎月一回、自己評価結果を受けての改善策について、小グループで情報交換又は意見交換できる場を設けることも考えられます。

【例：小グループで行う学校改善の話し合い】

学年から1人ずつ7人組で1グループです。その小グループでいくつも同時に話し合いをもちます。1人2分間、自己評価から見えてきた課題への取組・実践報告をします。7人で14分です。まとめを入れても20分で済みます。（1人2分は厳守です。話をする訓練にもなります。短いと集中して聞けます。短いと内容を吟味するようになります。）実際に取り組んだ資料等が準備できれば、更に良いのですが、一度に沢山のことを続けることは難しいものです。そこで、短い時間で取り組めば、負担も軽く、続けられるようになり、学校改善に向けて職員の意識が常に同じ方向に向くようになります。



Q18 自己評価を次年度学校運営に生かすポイントは何でしょうか？

組織論の中で考えてみましょう。
改善策を誰が、どの組織で打ち立てて実施するのかを整理することが大切です。
PDCAサイクルのAction（改善）が大切です。

改善策を具体的に
進める手立てが
大切なんですね。



POINT① 学校全体で取り組むこと、学年で・学級で取り組むこと、各分掌で取り組むこと等、具体的な取組内容を整理して考えましょう。

見えてきた課題に対して、行事や施設設備面等学校全体で取り組むことの他に、職員一人一人が自分の校務分掌や学年、教科の中で、どれだけ具体的に改善策を考えられるかがポイントになってきます。この点を年度初めに確認し、明確に計画に位置付けることが必要になってきます。例えば、学級・学年経営案等の活用も考えられます。

Q19では、時間軸の中で改善策を考えることについて触れましたが、「いつ」「だれが」「どのような方法で」改善策に取り組むのかを明確にすることが大切です。マトリクスを作るのも一つの方法です。

学校便りに、次回の授業参観での各クラスの見所を載せて、取組を発信しよう。

【例：課題解決に向けてのマトリクス】

〇〇小学校 課題解決に向けてのマトリクス						
	学 級	学 年	各分掌	学校全体	地域社会	保護者
今すぐ						
今学期中	朝の「ぐんぐんタイム」の内容を難易度別に再検討しよう。			挨拶運動を形骸化させないために、職員が各教室に入るときに率先して大きな声で挨拶に取り組もう。		
今年度中	教材を使用しやすいように、教材一覧の整理に教科主任を中心に取組もう。					
来年度						

いつ、だれが、どのような方法で改善策に取り組むのかをマトリクスにまとめると、分かりやすいですね。



Q19 自己評価報告書作成のポイントは何でしょうか？

自己評価シートを報告書の形式に合わせて作成すると、自己評価したものをそのまま使って、報告書を作成することができます。



報告書をイメージして作成するとよいですね。

POINT① 自己評価シートは作成しましたか？

自己評価シートは各学校1部作成します。学校評価のもとになるシートです。平成20年5月に各学校に配付された「平成19年度学校評価報告書」のpp.12-15を参考に作成されると良いでしょう。報告書には参考例が載っています。あくまでも参考例ですので、各学校で様式等は工夫してください。

POINT② 自己評価シート作成のポイント以下の6点です。

- ① 学校教育目標を設定します
 - ② 現状と課題を把握します。
 - ③ 今年度の重点目標を設定します。
 - ④ 重点目標について、評価項目を設定します。
 - ⑤ 評価項目について、具体的な取組を設定します。
 - ⑥ 評価の指標を設定します。
- (こういう姿になってほしい：目指す姿)

学校経営目標	〇基礎基本の定着や、学力向上を図る授業改善の推進		〇全教科で進地的心身の育成		
今年度の重点目標	〇授業改善を核として学習意欲をもつ生徒の育成		〇豊かな人間性を育むことのための教育課程の見直し		
学校教育目標	評価項目	現状と具体的取組	評価の指標	評 価	
思いやりの心・健やかな作	生徒指導	・学校生活のみならず家庭等においてもきちんと守れるような状況を作っている。 ・望ましい人間関係づくりのために、学級経営を基盤とした生徒指導に努める。 ・誰もが安心して過ごせる学校の環境作りを努める。 ・道徳の時間はもちろん日常生活の中で道徳教育の取組は行っている。	・生徒一人一人のコミュニケーションを大切にしている。授業の様子等についての積極的関与を促している。 ・具体的な生活目標を設定し、生徒会活動を中心として行っている。 ・ホームルーム活動を充実させている。生徒間の人間関係や変化を見逃さないようにしている。 ・教育指針の理念を年々高次元上、また必要に応じて更新している。 ・人は尊重するときの言葉遣いや態度・思いやり等の心がけを行うよう指導を行っている。 ・特別支援教育の取組が実施されている。	・生徒一人一人のコミュニケーションを大切にしている。授業の様子等についての積極的関与を促している。 ・具体的な生活目標を設定し、生徒会活動を中心として行っている。 ・ホームルーム活動を充実させている。生徒間の人間関係や変化を見逃さないようにしている。 ・教育指針の理念を年々高次元上、また必要に応じて更新している。 ・人は尊重するときの言葉遣いや態度・思いやり等の心がけを行うよう指導を行っている。 ・特別支援教育の取組が実施されている。	ABCD
	教育課程 学習指導 研修	・基礎・基本の定着を図るための授業改善を進める。 ・個に応じた学習方法の工夫、指導を行う。学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせようとしている。 ・授業の質を向上させるため、年間の計画を立て、テーマに基づいた授業の実践を行っている。	・個に応じた指導法の実施として、基礎・基本が身に付いている。 ・教材に関する授業研究を計画的に行っている。 ・学校の特色を設定し、その特色に合った力を伸ばすに努めた学習の計画が立てられて実施されている。		

「平成19年度学校評価報告書」p20より

POINT③ いよいよ報告書の作成です。

自己評価シート（参考例のもの）からそのまま報告書へ転記できます。

報告書の様式は総合教育センタートップページからダウンロードできます。平成20年5月に各学校に配付された「平成19年度学校評価報告書」のp.17、pp.23-24を参考に作成されると良いでしょう。自己評価書から報告書へそのまま内容が転記できます。年度末に新たに書き加えるのは成果と課題だけです。

(学校関係者評価まで実施された学校は、学校関係者評価欄①～③に書き加えます。)

学校経営目標		イ	
今年度の重点目標		ウ	
学校教育目標	評価項目	現状と具体的取組	評価の指標
ア	オ	エ	カ



学校教育目標	学校経営目標	学校関係者
ア	イ	
今年度の重点目標		
ウ		
評価項目	現状と具体的取組	成果と課題
オ	エ	

学校関係者評価まで実施した学校は記入します。実施していない学校は空欄です。

成果と課題を自己評価後に記入します。

Q20 自己評価結果の公表をする際のポイントは何でしょうか？

自己評価の公表は、法令上義務づけられました。これは公表することで、学校が、地域社会・家庭との連携を更に深めるためのものです。

評価結果の公表は、学校をより理解してもらうためのものです。



POINT① 自己評価結果を公表する意味は次の3点です。

- ◇ 学校の現状（子どもたちの実態・学校の取組）を理解してもらいます。
- ◇ これまでの努力とその成果、更にそれらを踏まえた今後の改善方を伝えます。
- ◇ 家庭や地域の理解や連携を求めています。

特に2番目と3番目の意味が大事になってきます。学校の取組を伝え、子どもたちの健やかな成長を願って学校が取り組んでいる様子を伝えます。そして、何よりも教育は学校だけでは成り立ちません。家庭や地域の協力があつてこそ、地域に生きる子どもたちは成長するのです。まず、学校の取組を理解してもらい、連携できるように情報を発信する必要があります。それによって、家庭や地域との連携が深められるのです。

学校評価の結果を公表することは、家庭・地域の理解や連携協力を求めるツールでもありますね。



POINT② 自己評価結果を公表する際の留意点は次の4点です。

- ◇ 誰もが見ることのできるインターネットでの公表、対象が限られている学校便りでの公表等、公表する際の受け手を考えて適宜公表する内容を工夫します。
- ◇ 児童生徒の個人情報の保護に留意しましょう。小規模校においては、個人が特定されないように特に留意しましょう。
- ◇ 保護者アンケートや児童生徒のアンケート結果だけを結果公表するのではなく、学校として組織的にPDCAサイクルに沿って自己評価を実施し、その結果であることを明らかにして公表します。
- ◇ 自己評価結果の数値だけでなく、それをうけて、どのように改善していくかを明らかにして公表します。

POINT③ 公表するにはこんな方法があります。

- 学校便り・学年便り ■学校評価特集号 ■学校説明会 ■学校評価報告会 ■ホームページ

Q21 学校関係者評価を次年度学校運営に生かすポイントは何でしょうか？

学校関係者評価を充実させましょう。そのためのキーワードは

- 「とにかく学校を見ていただく・学校に足を運んでいただく」
 - 「自分の目でチェックしていただく」
 - 「教職員と会話・交流しながらの意見交換」
- この3つです

学校関係者の方々と教職員の双方向の交流が大切です。



学校の中でこんな会話は聞こえますか？



学校関係者の方々の意見が一方的で、僕たちの意見も聞いてもらいたいなあ。



あまり学校に来ていただけていないのに、ご自分の基準で意見を言われてもねえ。

学校関係者評価の充実のポイント

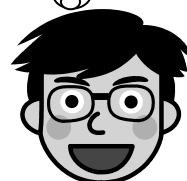
- ◇ 実際に普段から学校を参観していただき、気づいた点（良い点・問題点）を具体的に指摘し合い、課題を明らかにするようにします。（付箋に気づいた点を書き入れる。チェックシートの活用等）自己評価結果だけを基にして、「さあ、ご意見を下さい」では、なかなか意見は出ないものです。そこで、積極的に学校に来ていただいて、学校を見ていただいた上で付箋に気づいた点を書き入れ、教職員とグループ毎に対話しながら付箋を整理する方法や、チェックシート等を基にして意見を伺うようにします。（Q15・Q16を参照してください。）

先生方とゆっくり話ができ良かった。

学校の様子が良く分かりましたよ。これからも学校に足を運びますね。

地域の方々の心強い応援をいただくことができ良かったです。やっぱり顔を見て話すことは大切ですね。

なるほど！！これでお互いに気持ちを通じ合わせることができますね。



～学校関係者評価委員と教職員がともに学校の良い点と課題を整理している様子～